

平成 22 年 4 月 28 日現在

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19730481

研究課題名（和文）ドイツの環境教育に関する教授学的研究

研究課題名（英文）A STUDY ON EDUCATIONAL METHODS OF ENVIRONMENTAL EDUCATION IN GERMANY

研究代表者

若林 身歌（WAKABAYASHI MIKA）

山形大学地域教育文化学部・准教授

研究者番号：50400536

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：環境教育・ドイツ・教授学

1. 研究計画の概要

本研究は、環境先進国として知られるドイツにおける環境教育の取り組みを、教育方法的な視点から体系的に解明しようとするものである。本研究では、ドイツにおける環境教育の取り組みのなかでも、児童・生徒を対象に初等学校や中等学校において計画・実行されている学校での環境教育の取り組みに着目し、そこでの教育目標と教育内容・カリキュラム、教授・学習方法と教材・教具、また、これらの実践における各要素を支えている環境教育の思想や理論を解明することを目的とする。したがって、平成 19 年度～平成 22 年度の 4 年間の研究活動では、ドイツの初等・中等学校における環境教育の取り組みについて、次の 4 つの問いを明らかにすることに取り組むこととする。4 つの問いとは、(1) 今学校教育がすべての子どもに保障すべき「環境リテラシー」「環境資質」とは何か。(2) それを実現するための教育内容やカリキュラム、指導方法とはいかなるものか。(3) 初等学校ならびに中等学校の環境教育実践における本質的な教材・教具とはどのようなものか。(4) これらの環境教育の教授法（教育方法）や教授学を支えている環境教育の教育的基底とは何かである。

2. 研究の進捗状況

平成 19 年度は、ドイツにおける環境教育の教育的基底を明らかにするために、ドイツにおける環境教育の代表的な立場とその思想的基盤を解明することに取り組んだ。

平成 20 年度は、環境教育の目的と教育目標、そして教育内容とカリキュラムの分析に取り組んだ。まず、環境教育の教育目的・目

標を明らかにするために、(1) 連邦・各州の環境教育制度にみる環境教育の目的・目標の解析、(2) 環境教育指針や指導資料における環境教育の目的・目標の把握、(3) 教科書や副教材にみる「子どもたちに身に付けたい環境資質（環境リテラシー）」の分析を行った。また、教育内容およびカリキュラムの解明に向けて、(1) 初等・中等学校における環境教育内容の特質と内容の取り扱いについての分析、(2) 教科ルールプランにおける環境教育内容と内在型環境教育カリキュラムの解明、(3) 教科書にみる環境教育の教育内容とその取り扱いについての分析、(4) 連邦・各州の環境教育推進プログラムにおける環境教育カリキュラムの分析を行った。

平成 21 年度は、ドイツの初等・中等学校における環境教育の教育方法と、教材・教具に関する分析に取り組んだ。環境教育の教授・学習方法（教育方法）を明らかにするために、連邦ならびに各州の環境教育政策における環境教育の教授原理と教育方法の検討を行った。また、基礎学校や中等学校における環境教育や「持続可能な発展のための教育（ESD）」としての様々な取り組みの事例を収集・整理することで、ドイツの学校における環境教育の取り組みの傾向や特質を明らかにした。一方、教材・教具に関する研究としては、基礎学校における環境教育の基盤教科である「事実教授」や「郷土—事実教授」を中心に、関連教科の教科書を収集し、そこでのテーマや内容の取扱いについて分析を試みるとともに、学校における環境教育の実践に向けて各州の文部省や環境関連団体より出されている環境教育のための副読本や教材・教具についても検討を行った。

3. 現在までの達成度 やや遅れている。

(その理由)

平成 21 年度(3 年次)の研究活動に向けて、当初の計画では、平成 22 年 1 月までに事前調査と現地調査の準備を行い、2 月に現地の初等・中等学校にて授業の参与観察と、教師ならびに児童・生徒を対象とした環境教育の教授・学習方法や教材・教具に関する質問紙調査を実施する予定であった。

しかしながら、現地の協力校と調整の結果、調査の時期を当初予定の冬季から、より多くの環境教育関連の実践や活動を見ることのできる次年度の夏季へと変更。現地調査の実施時期を、平成 22 年度の夏季へと延期した。

(研究計画の変更)

また、調査方法に関しても協力校との協議の結果、今回の現地調査では教師や児童・生徒への質問紙調査は行わないこととした。そこで、質問紙調査に替えて、授業の参与観察とともに教師への聞き取り調査を実施することにした。(研究方法の変更)

4. 今後の研究の推進方策

最終年度となる平成 22 年度の課題はふたつある。(1)前年度末に実施する予定であった現地の学校における環境教育実践に関する実地調査を実施すること。(2)4 年間にわたる研究活動のまとめに向けて、過去 3 年間における研究成果を土台に、論文と最終報告書の作成に取り組むことである。

ドイツでの現地調査は平成 22 年 9 月の実施を予定している。現地調査に向けては、引き続き協力校との調整を図りながら、事前学習と調査準備を進めたうえで、9 月に実施し、平成 22 年 12 月末までに研究成果のとりまとめを行うこととする。

一方、4 年間の研究活動のまとめに向けては、まず前期の半年間を用いて、この間の研究活動とその成果の点検と見直しの作業を行う。具体的には、ドイツにおける環境教育の教育学的基底の解明、環境教育の教育目的・目標ならびに教育内容とカリキュラムの理論と実際、環境教育の教育方法と教材・教具の理論と実際の 3 つの課題に沿って、これまでの成果を今一度整理・検討し直す作業に取り組む。

そのうえで、後期の半年間を用いて、この間の研究成果より代表的な研究成果を研究論文の形にまとめる作業に取り組む。また、これらの論文作成の作業と並行して、「ドイツの環境教育に関する教授学的研究—ドイツにおける学校環境教育の教育学的基底と環境教授学の体系—」の研究主題のもと、これまでの研究ノートや資料・データを改めて整理することで、本研究のまとめとしての報告書の作成を行う。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 0 件)

[学会発表](計 5 件)

若林身歌、ドイツにおけるエネルギー環境教育教材の研究(その 2)—エネルギー学習のためのモジュール式学校情報システム(MSE)の分析から—、日本エネルギー環境教育学会、2009 年 8 月 9 日、福井大学

若林身歌、ドイツにおけるエネルギー環境教育教材に関する研究—エネルギー学習のためのモジュール式学校情報システム(MSE)の分析から—、日本環境教育学会、2009 年 7 月 25 日、東京農工大学

若林身歌、ドイツにおけるエネルギー環境教育教材に関する研究—エネルギー学習のためのモジュール式学校情報システム(MSE)に着目して—、日本エネルギー環境教育学会、2008 年 8 月 10 日、常葉学園大学

若林身歌、持続可能な社会の構築に向けての環境教育の探究—ドイツにおける BLK プログラム 21 の総括—、日本環境教育学会、2008 年 8 月 2 日、学習院女子大学

若林身歌、ドイツにおける「持続可能な発展のための教育」への取り組みとエネルギー環境教育、日本エネルギー環境教育学会、2007 年 8 月 8 日、高知工科大学

[図書](計 0 件)

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]